学びや タイムスリップ

個性あふれる建築に

1948（昭和23）年まで続いた女子中等教育機関である高等女学校（以下、高女）は、1899（明治32）年に高等女学校令が施行されてから1910（同43年）までに、京都市内では堀川高女など6校が誕生しました。それらの高女は、個性あふれる学校建築を有していました。

1899年に開校した顕道女学院（現京都女子中・高）は、改称・移転を経て1910年に統合によって京都高女となり、1914（大正3）年に現在の京都女子学園（東山区）の地に移転しました。

移転直後は簡素な木造校舎でしたが、次第に生徒数が増加し、校舎の拡張が進みました。写真1の右奥の建物は「錦華殿」といい、1898（明治31）年に西本願寺第22代門主・大谷光瑞と妻・壽子の新居として建てられ、1920（大正9）年に京都高女に移築されたものです。老朽化のため1981（昭和56）年に解体されましたが、2000（平成12）年に京都女子学園のシンボルとして復元再建されています。

また、1904（明治37）年に因幡堂内に開校した高等家政女学校（現京都文教中・高）は、幾度の閉校の危機を乗り越えて、1916（大正5）年に大雲院内（四条通寺町下ル）に拡張移転、1924（同13）年に高女に昇格しました。当時の校門には、昇格前の「高等家政女学校」と昇格後の「家政高等女学校」の門標がついています。

この頃、家政高女は生徒数が急増し、第3代校長・大島徹水の尽力によって1934（昭和9）年に左京区の現在地に移転、3階建ての鉄筋校舎が建てられました（写真2）。この鉄筋校舎は現在でも使用されており、同じく戦前に建てられた平安女学院中・高（上京区）の校舎とともに、貴重な元高女の学校建築となっています。

（京都市学校歴史博物館学芸員　和崎光太郎）

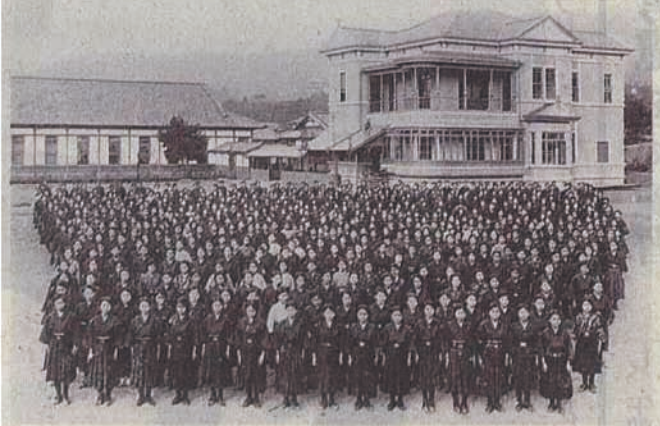
写真1、京都高等女学校・裁縫女学校。右奥は錦華殿（1921年）

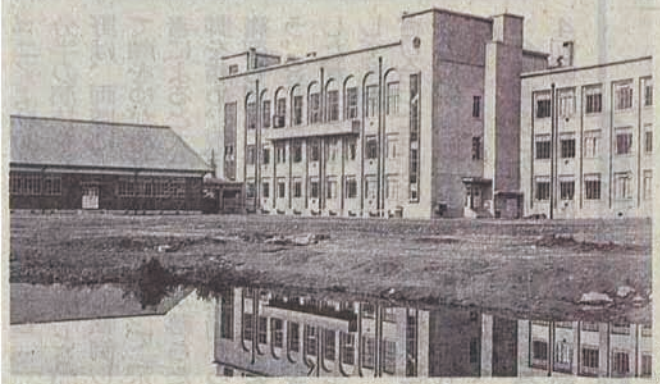
写真2、家政高等女学校。この校舎は現在も使われている（1934年）

◇

今回紹介した写真は学校歴史博物館（下京区）の企画展「京都の高等女学校と女学生」（3月29日まで）に出展しています。

訂正　8日付「醍醐地域の小学校の変遷」の表で、日野小が分離したのは「石田小」ではなく、「春日野小」の誤りでした。筆者の誤入力で、編集段階の点検が不十分でした。